

吉田宗恂とその周辺—コンピュータと図書館を活用して

(1) 本草序例抄・寛永 18 年版の跋

島野達雄

1. インターネットと図書館

インターネットと図書館との違いは、日めくりとカレンダーとの違いに似ている。

ネットでは「わかっていること」を、ピンポイントでより詳しく調べられるが、カレンダーのような前後左右の「一覧性」がない。

図書館では分野ごとに本が集まっており、たまたま開いた本から、「何が問題なのか」を自分なりに発見できる。最近の事例を紹介したい。

2. 吉田宗恂の本草序例抄

江戸初期、吉田角倉家の頭領ともいべき吉田宗恂の本草序例抄を『国書総目録』で調べると、国会図書館、東北大（狩野）、京大、杏雨書屋など数館が所蔵していることがわかる。その前後には、本草序（叙）例のほか、玄由自筆の本草序例鈔が宮書（宮内庁書陵部）に、林羅山自筆の本草序例註が内閣文庫（国立公文書館）にあると記されている。ネットを利用すると、これらのほとんどは閲覧、ダウンロードができる。

杏雨書屋（「乾々」と略記してあるものを含む）や宮内庁書陵部は、蔵書の本文を公開していないので、直接出向いて閲覧するか、複写・郵送を依頼しなければならない。

3. キーとなる論文

さて、Wikipedia で「玄由」を調べると、西村義明「寿徳院玄由の閲歴について」という論文が 2000 年の『日本医史学雑誌』にあることがわかった。さいわい、非常勤をしている関西学院図書館が日本医史学雑誌のバックナンバーを所蔵しており、コピーを読んだところ、『大日本史料』12 編の 7 に、本草序例抄・寛永十八年版の宗恂の跋文がある、と書いてあった。

むろん国立情報学研究所の Cinii（サイニー）を使って、このような論文・書籍を検索することができる。ただし、自宅で西村論文を読むことはできなかった。

4. 大阪大学図書館

阪大図書館では、『大日本史料』をすべて開架で見ることができる。

宗恂の本草序例抄・寛永十八年版の跋には、

(我朝の) 東山月舟和尚, 為俗医所撰之抄有三帙. 馱繼天香梅屋統増益之, 並始補注序, 終衍義例. 予亦従重刊証類之本, 而去浮辞補漏脱, 以要令後学者不失其伝説とあり, 宗恂以前に, 撰抄・補注した人物に建仁寺の月舟寿桂 (1470-1533) がいたことがわかった.

阪大図書館レファレンス係の Y さんに調べてもらったところ, 月舟和尚のあと, 弟子の繼天寿馱 (1495-1549), 南禅寺の梅屋宗香 (?-1545) の二人が補注を増益したことが, **Japan knowledge** (ジャパン・ナレッジ) でわかった, とメールがあった.

5. 問題の所在

本草序例抄には, 宋・蔡沈の書集伝にもとづく四分暦の知識が披露されている (島野達雄「吉田宗恂の運氣論について」第 269 回近畿和算ゼミナール). 12 歳で「九章算法」を学んだ, 建仁寺の中巖円月 (1300-1375) は, 「觸岸算法」を著したという (川本慎自「禅僧の数学知識と経済活動」中島圭一 編『十四世紀の歴史学 新たな時代への起点』(高志書院、2016 年).

今後は, 吉田宗恂につながる, 京都五山の禅僧がもっていた数学や暦学の知識を調べなければならないだろう.